

令和8年3月19日  
学校法人獨協学園  
獨協医科大学

## 統合失調症患者の転倒リスクの鍵は「歩く速さ」

日本の精神科病院では長期入院患者の高齢化が進んでおり、転倒による骨折や寝たきりが新たな問題となっています。獨協医科大学精神神経医学講座（主任教授 古郡規雄）の菅原典夫准教授と杉崎友美レジデントらの研究チームは、統合失調症の入院患者 195 人を対象とする調査を行い、歩く速度が遅い人ほど転倒リスクが高いことを明らかにしました。調査の結果では、フレイルの該当者では転倒リスクが約 10 倍に高いことが示されました。

統合失調症は認知や行動に影響する精神疾患として知られていますが、近年では身体健康への影響も重要視されています。統合失調症患者は一般人口より平均寿命が 10～20 年短く、代謝異常や身体機能低下が多いことが知られています。特に近年注目されているのがフレイル (frailty : 加齢などにより身体機能が低下した状態) です。フレイルは筋力低下や身体活動低下などを特徴とする老年医学の概念で、転倒や身体機能低下の重要なリスク因子とされています。しかし、統合失調症患者におけるフレイルの実態や転倒との関係については十分な研究がありませんでした。そこで、本研究では 2023 年 2 月から 11 月にかけて、40 歳以上の入院患者 195 人を対象に調査を実施しました。

その結果、対象者の 32.8% がフレイル、54.9%がプレフレイルに該当し、健常とされたのは 12.3%に留まりました。また、年齢別に検討 (表 1) を行ってみると、一般には、70 歳未満ではフレイルの該当割合は 1.9% とされ、85 歳以上で 30% を超えるとされるものが、統合失調症では、40 歳代から 30% を超える高い該当割合であること、そして約 4 人に 1 人の割合で転倒を生じていることが判明しました。

表 1 統合失調症入院患者における、フレイルと過去 1 年の転倒発生割合

	フレイル		転倒	
40 ≤ 年齢 < 50	33.3%	(5/15)	13.3%	(2/15)
50 ≤ 年齢 < 60	35.3%	(12/34)	20.6%	(7/34)
60 ≤ 年齢 < 70	21.5%	(14/65)	18.5%	(12/65)
70 ≤ 年齢	40.7%	(33/81)	29.6%	(24/81)
全対象者	32.8%	(64/195)	23.1%	(45/195)

フレイルと関連する要因の検討を行ったところ、体組成の指標である除脂肪体重指数 (筋肉量の指標) と関連することが判明し、予防的介入の標的が筋肉量の向上であることがうかがえました。ま

た、過去1年間の転倒既往とフレイルとの関連を検討(表2)したところ、フレイルのある患者は、フレイルでない患者と比べて、転倒のオッズ比が約9.85倍に増加していることが示唆されました。

表2 統合失調症入院患者における、フレイルと過去1年の関連(共変量調整済み)

	オッズ比	Wald 値	p 値
健康	1.00		
プレフレイル	<b>4.92</b> (0.61-39.79)	2.23	0.135
フレイル	<b>9.85</b> (1.18-81.98)	4.48	<b>0.034</b>

さらに、フレイルの5つの要素(体重減少・活動低下・疲労感・筋力低下・歩行速度低下)のうち、歩行速度の低下(slowness)が転倒と最も強く関連(表3)していたことから、歩く速度の低下が転倒リスクの最も重要な指標であることが示され、日常的な歩行速度の観察が重要であることが明らかにされました。

表3 統合失調症入院患者における、フレイル5要素と過去1年の関連(共変量調整済み)

	オッズ比	Wald 値	p 値
体重減少	1.27 (0.41-3.94)	0.17	0.682
活動低下	1.35 (0.61-2.96)	0.56	0.456
疲労感	0.84 (0.37-1.89)	0.18	0.671
筋力低下	1.38 (0.62-3.06)	0.62	0.431
歩行速度低下	<b>3.14</b> (1.32-7.45)	6.71	<b>0.010</b>

本研究は、統合失調症患者における転倒リスクのメカニズムを明らかにしたものであり、歩行速度の評価を日常診療に取り入れることで、転倒予防につながる可能性があります。なお、本研究をまとめた論文は、国際医学誌「Schizophrenia Research」(インパクトファクター:3.5)に掲載されています。

書誌情報および本件取材についての問い合わせ先は、以下の通りです。

論文: Frailty and fall risk in schizophrenia: Which components drive the risk of falls? Schizophr Res. 2026;289:18-24.

著者: Tomomi Sugisaki, Norio Sugawara, Masataka Shinozaki, Narifumi Yokoyama, Ryota Yoshida, Yasushi Kawamata, Norio Yasui-Furukori

#### 【研究チーム】

獨協医科大学精神神経医学講座: 古郡規雄主任教授、菅原典夫准教授、川俣安史講師、篠崎将貴非常勤助教、横山宣史非常勤助教、吉田良太病院助教、杉崎友美レジデント

本件に関するお問い合わせ先  
獨協医科大学精神神経医学講座 菅原 典夫 (すがわら のりお)  
電話(代表) 0282-86-1111 e-mail: nsuga3@dokkyomed.ac.jp